

P-2-81

乳幼児の水分摂取機能発達に関する研究
第2報 アンケートによる水分摂取機能発達と乳幼児
発達について

○大久保真衣, 細谷美穂*, 石田 瞭, 川田敬弘*,
白井裕子*
(東歯大千葉病院・摂食・嚥下リハビリテーション・
地域歯科診療支援科,
*コンビ株式会社・プロダクトセンター商品開発室)

【目的】

健康乳幼児の水分摂取と食具との関係性については明らかになっていない。健康乳幼児の運動機能と水分摂取機能の関連についての報告はほとんどみられない。一方、健康乳幼児であっても個々の成長発育は異なる。このため粗大運動や形態成長を基準にすることで、個々の成長発育の違いを踏まえた水分摂取機能発達を検討できると考えた。また第1報よりすすり飲み不十分のままストローでの水分摂取した場合、コップによるすすり飲みを習得するまでに長期間を要した事が判明した。このため、今回コップ飲みに着目し、健康乳幼児の粗大運動、形態成長を基準とし、コップ飲みの検討をおこなったので報告する。

【対象と方法】

対象児は心身共に異常を認めない乳幼児のボランティア11名中、本研究の項目が調査可能であった健康乳幼児8名とした。開始時、最低月齢児は5か月、最高月齢児は14か月であった。水分摂取において、すすり飲みが先にできたものをすすり飲み先行群(以下sip群) (男児4名)、ストロー飲みが先にできたものをストロー先行群 (以下straw群) (男児3名、女児1名)として比較検討した。

方法は、2007年6月から12月までほぼ毎月、実際に水分摂取している様子を評価および撮影をした。またこの期間に、保育者からみた児の各発達項目をできた日をアンケート記載することとした。アンケートはほぼ毎週とし、自由コメント欄の様子や感想等も記載してもらった。開始時以前にできた項目については、保育者の記録から記載してもらった。発達・成長項目は

表1に記載する。期間中の使用食具はスプーン、コップ、ストローは規定のものとした。なお期間前の食具は特に規定しなかった。また開始時、全対象児がコップ飲みはできなかった。

表1 発達・成長項目

発達項目
・ハイハイができた
・伝い歩きができた
・下顎前歯部が萌出した

発達・成長項目を基準として、コップ飲みができた月齢を比較した。コップ飲み月齢が、発達・成長項目ができた月齢以前であればマイナス、以降であればプラスとして表記した。なお同月齢でできた場合は0とした。このようにして得られた結果を比較月齢として検討した。例を表2に示す。統計学的処理は、Mann・WhitneyのU検定 (SPSS16.0) を用いた。

表2 例 伝い歩きとコップ飲みができた月齢比較

症例	コップ飲みができた月齢							比較月齢
	3	2	1	0	1	2	3	
A		○						-2
B					○			1
C						○		2

伝い歩きを基準にコップ飲みができた月齢に○を記載し、比較月齢を表記した。

【結果】

ハイハイを基準とすると、コップ飲みができた比較月齢は、sip群 1.3 ± 2.1 か月、straw群 6.8 ± 2.5 か月であった。伝い歩きを基準とすると、sip群 0.5 ± 1.7 か月、straw群 5.0 ± 1.8 か月であった。下顎前歯を基準とすると、sip群 1.8 ± 1.2 か月、straw群 5.5 ± 1.3 か月であった。いずれもstraw群がsip群よりも有意に遅かった。

【考察】

第1報と同様に、すすり飲みをストロー飲み以前に行うことによって、正しい水分摂取方法を習得することができたと考えた。粗大運動や形態成長を考慮することにより、個々の発達に応じたコップ飲みの時期を検討できたと考えた。